

報知新聞
便錦画第六号

東京琴平町主族佐藤重三郎の
 娘おせんの子吉五郎へ貫く取
 柄もつりて五ひふ若木の丈帰松
 木おのまゝ高砦を訊ひしが彼の
 重三郎が妻の身は老木花の喜良
 とかひて心を通じ居今我はう那
 ちと心配詞一服の薬をうら
 廻らしてより死なむと命をうら
 毒婦のユミ怖く野送り出さ
 夜は有らま婦の珠取を返さむ
 れをそのまゝいふ人へつて其場を
 まゝ世間をぐる強裕なららば
 勞邪心も殺す明とあり明治五年
 五月廿日敬言視聽引かれ

